

薬学生の安全意識向上に寄与する教材開発とその有用性

○佐藤 友香¹, 小林 小春¹, 中瀬 真理¹, 佐藤 智恵美¹, 阿部 真治¹,
柴田 洋文¹, 東 満美¹(¹徳島大薬)

【目的】現在の医療従事者にとって、リスクマネジメントは欠くことのできない重要な責務である。薬剤師を目指す薬学生にも、安全意識の向上を図ることは大変重要と考えられる。そこで我々は学生の安全意識向上に寄与すべく、調剤をテーマにセーフティマネジメント教材の作成を試み、その有用性について検討した。

【方法】実習中の調剤インシデントの報告用教材を作成し、平成25年度第I期徳島大学実務実習生47名を対象に11週間の実習中のインシデント報告を収集した。また、平成24年度実習での予備調査をもとに5つの調剤間違い事例を映像化し、重大事故事例等を加えてDVD教材を作成し、実習開始1週間前に25名の学生に視聴させた。対象学生には、実習前および実習後に、DVD視聴学生には視聴直後にもアンケート調査を実施し(回収率100%)、その意識変化や効果について検討した。

【結果】インシデント報告より、実務実習中の調剤間違いは錠剤・カプセル剤等の計数調剤が群を抜いて多いことがわかった。実習生自身の調剤間違いの予想頻度は、実習前比較的低く見積もられていた計数調剤において、DVD視聴直後からは高く見積もるように意識変化しており、アンケートでも調剤時の間違いに対する認識が以前と変わったという回答が96%を占めた。DVD視聴群において、64%が実習中にDVD内容を思い出しそれが間違い防止につながったと回答し、インシデント報告提出枚数が実習中期以降は有意に減少していた。

【考察】作成したDVD教材は、実務実習に臨む学生に計数調剤にも注意する必要性や能動的にインシデント報告を行う意義を意識付けできたと考えられる。また、これらの意識変化が間違い発生防止につながる可能性も示唆された。